

はじめに

本書『目黒区の教育』は、令和元年度に目黒区教育委員会が取り組んだ事業内容をまとめたものです。

今、目黒区立の小・中学校、幼稚園・こども園では、1万2千人を超える児童・生徒・幼児が学んでおり、次代を担う子どもたちが知・徳・体のバランスのとれた豊かな人間性を育むことができるよう、魅力と活力にあふれ、信頼される学校づくりに取り組んでいます。また、人生100年時代の生涯学習のあり方を考え、めぐろの歴史と文化を大切にするという意識を持ちながら、諸事業を展開しています。

令和元年度の学校教育についていえば、小学校では、令和2年度からの新学習指導要領の全面実施を見据えて「外国語科」で使用する教科書の採択を行うとともに、プログラミング教育の必修化に向けて、プログラミングソフトを利用した体験学習を実施しました。そして、中学校では、第2学年を対象として英語4技能検定（聞く・読む・話す・書く）を実施して、生徒の英語力向上や教員の授業改善に活用しました。

また、特別支援教育では、「目黒区特別支援教育推進計画（第四次）～心のバリアフリーをめざして～」を策定し、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システムの構築を基本的な考え方として、令和2年度～6年度を計画期間として取組みを進めていくこととしました。

さらに、学校（園）における働き方改革については、全校（園）に留守番電話装置を設置したり、スクール・サポート・スタッフの配置校の拡充などにより、教職員の業務負担の軽減を図りました。

このほかにも、いじめ防止対策や不登校への対応、学校施設の熱中症対策など、個々の課題に適切に対応してまいりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校の長期休業から始まりました。第2波、第3波が懸念される中、「GIGAスクール構想」の早期実現によるオンライン授業の取組みや、本区の魅力の一つである「午前5時間制40分授業」を活かした授業時数の確保による学びの保障など、創意工夫を重ねながら様々な課題に対応してまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和2年8月

目黒区教育委員会教育長

関根義孝